

教育研究業績書

令和7年 5月 1日

氏名 脇山 英靖

研究分野	研究内容のキーワード	
文学教材における読解指導 (国語科教育法)	分析批評、「読みの観点」の習得・活用、「記号論的発問」	
教育上の能力に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例		特記事項なし
2. 作成した教科書、教材	平成23年4月	「朝の10分間テスト国語」(東京書籍版「新しい国語」準拠)執筆. 説明文、物語文、作文、文法など、ワークシートを作成する。
	令和2年4月	教師用指導書執筆者(東京書籍:令和2年度4月使用教科書:国語4年) ※教師用指導書「研究編」「ワークシート」、赤刷り本
3. 教育上の能力に関する大学等の評価	令和2年6月23日 令和5年3月31日 令和6年7月10日	・令和2年度「最優秀授業賞」(佐賀女子短期大学)「総合的な学習の時間の指導法」 ・令和4年度公立学校教職員表彰(佐賀県教育長表彰) ・令和5年度「最優秀授業賞」(佐賀女子短期大学)「算数科教育法」
4. 実務の経験を有する者についての特記事項		■小学校教員28年間勤務 (平成7年4月1日～令和5年3月31日) ・平成7年4月1日～ 多久市立北部小学校教諭(3年間) ・平成9年4月1日～ 鹿島立明倫小学校教諭(5年間) ・平成15年4月1日～ 武雄市立東川登小学校教諭(8年間)※2年間大学院 ・平成17年4月1日～平成19年3月31日 兵庫教育大学大学院学校教育研究科教科教育専攻(修士課程)入学 ・平成23年3月31日 佐賀県小学校教諭を退職 ・平成23年4月1日～ 佐賀大学文化教育学部附属小学校(6年間) ・平成29年3月31日 同小学校教諭を退職 ※学部改組のため 「文化教育学部」から「教育学部」に変更 ・平成29年4月1日 佐賀県小学校教員指導教諭に採用(同日退職) ・平成29年4月1日～ 佐賀大学教育学部附属小学校(指導教諭)(1年間) ・平成30年3月31日 同小学校指導教諭を退職 ・平成30年4月1日～ 佐賀県小学校教員に採用(教頭に昇進)

	平成23年～ 平成29年	・平成30年4月1日～ 武雄市立山内東小学校（教頭）（2年間） ・令和元年4月1日～ 佐賀県教育庁 教育振興課（係長）（3年間） ■教育実習に関する指導 ・毎年9月（4週間）、佐賀大学教育学部から受け入れた教育実習生に対する指導（7年間） ・教育実践フィールド演習Ⅱにおける実習生に対する指導（7年間） ・教職実践演習Ⅳにおける実習生に対する指導（7年間）
5. その他	令和元年4月～ 令和4年3月	・旭学園 佐賀女子短期大学 こども未来学科 准教授（3年間）
	令和2年4月～	・旭学園 佐賀女子短期大学 こども未来学科 こども教育コース主任（～R6.3）（3年間） （令和6年度：学科長と兼任）
	令和5年4月～	・旭学園 佐賀女子短期大学 こども未来学科 教授
	令和6年4月～	・旭学園 佐賀女子短期大学 こども未来学科 学科長 （令和6年度：こども教育コース主任と兼任）
	令和7年4月～	・旭学園 佐賀女子短期大学 佐賀女子高等学校 衛生看護専攻科 非常勤講師 ・学科長継続
職務上の実績に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許	平成 7年3月 平成21年2月	・小学校教諭一種免許状 （免許状番号：平六小一種第250号） ・小学校専修免許状 （免許状番号：平20小専第4号）
2. 特許等		特記事項なし
3. 実務の経験を有する者についての特記事項	平成8年2月	平成8年度 佐賀県教育センター 初任者研修 講師。 学級経営や国語科授業の実践について、初任者に指導助言、講話を行った。
	平成11年2月	平成10年度 文部科学省指定 佐賀県鹿島市教育委員会 鹿島市明倫小学校 公開授業、「生きる力をはぐくむ教育の創造」（1年次）を研究主題に、人間科「見つめる命・支える心」（5年単元）で、総合学習の授業を提案した。既存の教科にとらわれず、教科を「人間科」「自然科」「表現芸術科」の三つの教科に再編した。（H11.2.4）
	平成12年1月	平成11年度 文部科学省指定 佐賀県鹿島市教育委員会 鹿島市明倫小学校 公開授業、「生きる力をはぐくむ教育の創造」を研究主題（2年次）に、表現芸術科「私のデビュー」（6年単元）で、廃材を使って等身大の自分を表現させた。6ヵ年の教科横断的カリキュラムを作

	成し、教育課程の開発を行った。(H12. 1. 28)
平成12年5月	平成12年度 福岡教育大学附属小学校 実践発表.「豊かな人間の育成をめざす教育の創造」を研究主題に、シンポジウムのパネリストとして総合的な学習の実践を発表した。(H12. 5. 29)
平成12年11月	平成12年度 文部科学省指定 佐賀県鹿島市教育委員会 鹿島市明倫小学校 公開授業及び実践発表.「生きる力をはぐくむ教育の創造」を研究主題(3年次)に、自然科「おいしい発酵食品を作ろう」(5年単元)で、総合学習の提案授業を行った。(H12. 11. 10)
平成13年11月	平成13年度 佐賀県鹿島市教育委員会 鹿島市教育研究大会(鹿島市明倫小学校) 公開授業. 総合単元「ぼくらは小さな社会人」(6年単元)で、児童が職場体験を行い追求した内容を未来マップに書き込み自分の生き方を更新する授業を公開した。(H13. 11. 2)
平成13年11月	平成13年度 佐賀県鹿島市教育委員会 鹿島市教育研究大会(鹿島市明倫小学校) 実践発表. 総合単元「渦に出かけよう」(6年単元)で、児童が干潟に出かけ、有明海の問題を自分のこととして解決し追究した実践を発表した。(H13. 11. 2)
平成14年10月	平成14年度 佐賀県教育委員会 県造形教育研究大会(鹿島市立能古見小学校) 公開授業及び分科会提案.「つくり出す喜びを味わわせ、自己実現を扶ける造形教育」を研究主題に、「生きものにおしゃれなまようをつけよう」(5年絵画)の提案授業を行った。(H14. 10. 18)
平成16年1月	平成15年度 文部科学省学力向上フロンティア事業 佐賀県武雄市教育委員会委嘱 武雄市立東川登小学校 公開授業.「確かな表現力を身につけ、豊かに伝え合う児童の育成」(2年次)を研究主題に、3年物語教材『ぼくはねこのバーニーがすきだった』の読解授業を提案した。(H16. 1. 30)
平成17年1月	平成16年度 文部科学省学力向上フロンティア事業 佐賀県武雄市教育委員会委嘱 武雄市立東川登小学校 公開授業.「確かな表現力を身につけ、豊かに伝え合う児童の育成」(3年次)を研究主題に、4年物語教材『ごんぎつね』の読解授業を提案した。(H17. 1. 21)
平成20年10月	平成20年度 第29回佐賀県小学校教育研究会国語部会杵島大会 公開授業及び分科会提案(白石町立福富小学校).「取材をいかして創作しよう」(4年書くこと)の単元で、取材の蓄積、表現技法の獲得によって、児童が自力で詩を創作し、言語生活を高める授業を提案した。(H20. 10. 31)
平成22年10月	平成22年度 第30回佐賀県小学校教育研究会国語部会小城大会 分科会提案及び司会者(小城市立牛津小学校).「学習読みと生活読みの接点としての言語活動の要件」をテーマに、読解指導の段階的指導モデルを提案した。(H22. 10. 29)

平成23年1月	平成22年度 第51回九州小学校国語教育研究大会鹿児島大会 公開授業及び分科会提案(鹿児島県伊敷台小学校)。「実生活で生きてはたらく国語の力を育成する国語科授業の創造」を研修主題に、4年物語教材『ごんぎつね』を使って、読書案内作りを通して作品を分析する授業を提案した。(H23. 1. 29)
平成23年7月	平成23年度 佐賀大学文化教育学部附属小学校研究発表会 公開授業。「未来への架け橋を築く教育の創造」を研究主題に、1年物語教材『サラダでげんき』の読解授業を提案した。教科等研修会では、ICTの活用方法、教材開発に関する講師を務めた。(H23. 7. 21, 7. 22)「ことばでつながる学び手を育む国語科学習の探求」を研究主題に、言語伝達力を育てる単元の組織化を行い、対話活動の質を高めるために、「評価語彙」を児童に獲得させる研究を行った(佐賀大学との共同研究)。
平成23年12月	平成23年度 武雄市教育委員会委嘱 武雄市立東川登小学校研究発表会 公開授業。「学習指導要領の具体化」として、6年児童に「俳句で読む力をつける」と題し、読解授業(飛び込み授業)を提案した。(H23. 12. 27)
平成24年1月	平成23年度 佐賀県武雄市教育委員会委嘱 武雄市立東川登小学校公開授業研究会 講師。「確かな学力を身につけさせる教科学習の在り方～国語科(読解)における指導方法の開発～」(1年次)を研究主題に、3年物語教材『モチモチの木』の提案授業に対し、指導助言を行った。(H24. 1. 25)
平成24年8月	平成24年度 佐賀県教育委員会 佐賀県小学校国語教育研究会 夏季研修会 公開授業及びシンポジウム。2年物語教材『お手紙』で、国語科によるTT授業を提案した(佐賀市市村記念体育館)。(H24. 8. 16)
平成24年11月	平成24年度 佐賀大学文化教育学部附属小学校中学校研究発表会 公開授業及び分科会。「学びの連鎖が生まれる義務教育9年間のカリキュラム研究」(1年次)を研究主題に3年物語教材『木かげにごろり』の読解授業を公開し、確かな国語力を身に付けさせる言語活動について提案をした。教科等研修会では、ICTの教材開発の講師を務めた。(H24. 11. 21, 11. 22)「確かな国語力を身に付けさせる言語活動の工夫」(1年次)を研究主題に、「学力デザイン」「カリキュラムデザイン」を作成し、児童に習得活用させるための学習用ご一覧を作成した(佐賀大学との共同研究)。
平成25年1月	平成24年度 第54回九州小学校国語教育研究大会佐賀大会 基調提案。九州大会事務局として、「ことば学びの分科を愉しむ国語教室～愉しむ10の部屋で複線の思考に培う」と題し、単元を貫くために、言語活動を複線化し可視化する単元モデルを提案した(武雄市文化会館)。(H25. 1. 25)
平成25年2月	平成25年度 武雄市教育委員会委嘱 武雄市立北方小学校公開にて、提案授業「挿絵で読む力をつける」(5年:大造じいさんとガン)を通して、物語教材の読解方法を提案した(北方公民館:飛び込み授業)。(H25. 2. 22)

平成25年10月	平成25年度 佐賀大学文化教育学部附属小学校中学校研究発表会 公開授業. 「学びの連鎖が生まれる義務教育9年間のカリキュラム研究」(2年次)を研究主題に、5年説明的文章『森林のおくりもの』の読解授業を公開した。具体的には、「読みの観点」をカード化し、児童の思考を可視化する提案を行った。教科等研修会では、講師を務め、電子黒板を活用した国語科の授業づくりについて提案を行った。(H25. 10. 4) 「確かな国語力を身に付けさせる言語活動の工夫」(2年次)を研究主題に、附属小中学校で「小中連携プラン」を作成し、学習用語を「読みの観点カード」に作り変え、児童が自力で読解を進める方策を研究した(佐賀大学との共同研究)。
平成25年11月	平成25年度 佐賀県武雄市教育委員会委嘱 武雄市立東川登小学校公開授業研究会 講師. 「確かな学力を身につけさせる教科学習の在り方～国語科(読解)における指導方法の開発～」(3年次)を研究主題に、3年物語教材『三年とうげ』の提案授業に対し、指導助言を行った。(H25. 11. 26)
平成26年1月	平成25年度 第55回 九州小学校国語教育研究会 長崎大会「言葉の力を高めるこれからの授業」において、「読むこと」分科会で司会者を務めた。(H26. 1. 24)
平成26年8月	平成26年度 佐賀県教育委員会 佐賀県小学校国語教育研究会 夏季研修会 公開授業及びシンポジウム. 4年物語教材『ごんぎつね』で、国語科による授業を提案した(佐賀市市村記念体育館)。(H26. 8. 20)
平成26年10月	平成26年度 佐賀大学文化教育学部附属小学校中学校研究発表会 公開授業. 「学びの連鎖が生まれる義務教育9年間のカリキュラム研究」(3年次)を研究主題に、5年物語教材『大造じいさんとがん』の読解授業を公開した。具体的には、言語活動ガイドブック作りを通して、「読みの観点」を習得、活用させる提案を行い、6ヵ年の「読みの観点系統表」(物語教材編)を作成した。教科等研修会では、講師を務め、模擬授業を通して「明日から使える ICT 活用術」を提案した。(H26. 10. 10) (佐賀大学との共同研究)。
平成26年12月	平成26年度 第53回全国国語科教育研究大会東京大会(東京都東村山市) 代表授業及び分科会提案. 「活用力を高める国語科学習の創造」と題し、2年生に自作教材を用いて、漢字文化の授業を提案した。(H26. 12. 5)
平成27年7月	平成27年度 佐賀大学教育学部附属小学校「授業力向上研修会2015」(研究発表会)では、単元『『読みの観点』を使ってリーフレットを作ろう』(4年)を授業公開した。研究会、全体会では、「授業力向上」の視点から、コーディネーターを務めた。佐賀大学教育学部附属小学校研究発表会 公開授業. 4年説明的文章『くらしの中の和と洋』の読解授業を公開した(研究主任)。具体的には、言語活動ガイドブック作りを通して、「読みの

	観点」を活用させる提案を行った。6ヵ年の「読みの観点点系統表」(説明的文章編)を作成した。(H27. 7. 27)
平成27年10月	平成27年度 佐賀大学教育学部附属小学校・附属中学校研究発表会「21世紀型能力の育成を見据えた義務教育9年間の学びの研究」(1年次)を研究主題に、「確かな読みを育てる国語科学習の開発」を行った。具体的には、「読みの妥当性を問う10のモデル」を作成し、児童が授業場面でどのような思考スキルを使うのか研究を行った(佐賀大学との共同研究)。
平成27年10月	平成27年度 31回佐賀県小学校国語教育研究大会唐津大会 基調提案(唐津市立大志小学校)。「愉しみながら習得し活用する効果的な国語授業の工夫」と題し、全体会では、言語活動を「知って・使って・使えるようにする」の3段階に設定し、スモールステップを重ねるごとに、「話す・聞く」「読む」「書く」の観点が習得、活用される授業づくりの提案を事務局として、提案を行った。(H27. 10. 22)
平成27年11月	平成27年度 佐賀県神埼市教育委員会委嘱 神埼市立神埼小学校研究発表会 公開授業 助言者(講師)。「学びをつなぐ国語科学習指導」と題し、5年『天気を予想する』、6年『鳥獣戯画を読む』の授業について指導助言を行った。(H27. 11. 6)
平成27年10月	平成27年度 佐賀大学文化教育学部附属小学校中学校研究発表会 基調提案 全体会では、「21世紀型能力の育成を見据えた義務教育9年間の学びの研究」(1年次)を研究主題に、研究の概要説明を行った。(H27. 10. 31)
平成28年1月	平成27年度 第57回 九州小学校国語教育研究会 熊本大会「生きて働く言葉の力を培う国語科学習の創造」(熊本大学教育学部附属小学校)において、「読むこと」分科会で司会者を務めた。(H28. 1. 29)
平成28年2月	平成27年度 「第2回白石文庫活用講座」では、講師を務めた。効果的なICT活用した授業づくりについて、実践発表を行った。(H28. 2. 22)
平成28年7月	平成28年度 佐賀大学教育学部附属小学校「授業力向上研修会2016」(研究発表会)では、単元「俳句を読んでリーフレットを作ろう」(4年)を授業公開した。全体会、授業研究会では、「授業力」を「設計力」「展開力」「創造力」に三つに分け、18項目をもとに授業づくりに取り組むことを提案した。全体会では、「授業力向上」の視点から、コーディネーターを務めた。6ヵ年の「読みの観点点系統表」(俳句・短歌編)を作成した。(H28. 7. 26)(市村記念体育館)。
平成28年11月	平成28年度 佐賀大学教育学部附属小学校・附属中学校研究発表会「21世紀型能力の育成を見据えた義務教育9年間の学びの研究」(2年次)を研究主題に、「確かな読みを育てる国語科学習の開発」を行った。読みの妥当性を問う前に、「思考を整理させる場」を設定し、「思考スキル」と「学習スキル」を掛け合わせた新たな授業モデルを提案した(佐賀大学との共同研究)。21世紀型能力の全体像を示し、提案を行った(研究主任)。(H28. 11. 11, 11. 12)
平成28年11月	平成28年度 第7回佐賀県メディア教育研究大会「メディアを活用した豊かな人間力の育成」(太良町立多良小学校・多良中学校)助言者(講師)。提案授業に対し研究会で指導助言を行った。

	平成29年7月	平成29年度 佐賀県立図書館主催 「読書感想文にチャレンジしよう」講座講師 県内小学生、保護者を対象に感想文の書き方講座講師（佐賀県立図書館）。（H29. 7. 27）
	平成29年8月	平成29年度 佐賀大学教育学部附属小学校「授業力向上研修会2017」（研究発表会）では、単元『読みの観点』を使って詩の情景を読み取ろう」（5年）を授業公開した。研究会では、「活用力向上」の視点から授業づくりについて提案した。具体的には、言語活動リーフレット作りを通して、指名なし発表を行い、黒板を児童に開放し、「読みの観点」を道具として使いこなす授業を提案した。（H29. 8. 1）
	平成29年10月	平成29年度 佐賀県鹿島市教育委員会委嘱 鹿島教育研究会研究発表会 講師。鹿島市立明倫小学校公開授業（5年物語教材『注文の多い料理店』）の研究会で指導助言を行った。
	平成29年11月	平成29年度 佐賀大学教育学部附属小学校・附属中学校研究発表会「21世紀型能力の育成を見据えた義務教育9年間の学びの研究」（3年次）を研究主題に、読解力を高める言語活動の開発を行った。具体的には、「読みの妥当性を問う」ための教師の発問を整理し、児童に使わせる思考スキルを指導案に位置づける授業モデルを研究した（佐賀大学との共同研究）。基調提案、小中連携プラン（系統表）を示し、提案を行った。（H29. 11. 10 , 11. 11）
	平成30年11月	平成30年度 佐賀県教育委員会委嘱 活用力向上研究指定事業研究発表会 講師。鹿島市立明倫小学校公開授業（6年物語教材『海の命』）の研究会で指導助言を行った。
	令和2年1月	令和元年度 第61回 九州小学校国語教育研究会 佐賀大会事務局（平成24年～平成25年）。九州大会の研究部として、大会テーマ設定、国語科の提案授業、分科会や講演等の企画運営への指導助言を行った。（R2. 1. 24）
	令和2年2月	令和元年度 佐賀県教育センター「校内研究の推進・充実講座」講師 県内小中学校、高等学校、特別支援学校の研究主任への講話を行った。（R2. 2. 14）
	令和4年11月	令和4年度 第3回 武雄市教育研究会国語科研究部会主任研修会 講師 武雄市内国語主任に研究授業を含めた指導助言を行った。（R4.11.09）
4. その他	平成18年度	脇山英靖(2012), 東京書籍ホームページに実践事例掲載「Eネット（ https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/detail/67265/ ）」。「作って送って読書ゆうびん」と題し、2年物語教材『お手紙』をもとに、コンテンツを例示ながら 児童に「読む力」を確実に習得させ、活用させる一効果的な手立てとして、ICT（電子黒板）を活用した授業を試みた。
	平成20年度	脇山英靖(2014), 光村図書ホームページ「デジタル教材（ http://www.mitsumura-tosho.co.jp/ ）に実践事例掲載「物語を読み取ろう」と題し、6年教材『海の命』をもとに、電子黒板の効果的活用により、児童の思考を可視化させる授業を提案した。

	平成 22 年 3 月	脇山英靖(2010)『ICTの利活用！授業で使える！実践事例アイデア集Vol. 1 8』（日本教育工学振興会）に原稿執筆42-43, 詩の創作づくりを通して、児童の思考を可視化させるためにICTを利活用する授業提案を行った。
	平成 23 年度	脇山英靖(2011), 「朝の10分間テスト国語」（東京書籍版「新しい国語」準拠）執筆 説明文、物語文、作文、文法など、多岐にわたりワークシートを作成する。
	平成 27 年度	「子どもと創る『国語の授業』」（2015年 NO. 49）執筆（28-30）全国国語授業研究会・筑波大学附属小学校国語研究部「『読みの観点』を使って作品を分析する力を付けるー『読みの観点』は教師の発問の反映であるー」と題し、指名なし発表を用いた授業実践について執筆した。
	平成 31 年度	教師用指導書執筆者（東京書籍：令和2年度4月使用予定の新教科書：国語4年※教師用指導書「研究編」「ワークシート」執筆、赤刷り本執筆
	令和 3 年 3 月	「あそび おうち時間をもっと楽しく！」（佐賀新聞社 R3. 4発行）「親子で文字遊び」 pp. 20-22執筆 佐賀県内幼稚園保育園へ配布
	令和 4 年 4 月	「あそび おうち時間をもっと楽しく！」（佐賀新聞社 R4. 4発行）「親子で文字遊び」 pp. 20-22執筆 佐賀県内幼稚園保育園へ配布
	平成 26 年度～平成 29 年度	佐賀県「〈こんな本読んだよ〉文・詩・絵コンクール」審査員（佐賀県親と子の読書会協議会と県立図書館主催）。県内小中学生、高校生、一般市民に募集をかけ、応募作品を審査。毎年7月最終金曜日に「親と子の読書のつどい県大会」が開催され、審査員として講評をする（県立美術館ホール）。
	平成 20 年～平成 22 年	教師力向上「武雄セミナー」事務局（平成20年～平成22年）。市内教員の資質向上を図るため、研修会を企画し、運営した（武雄市教育委員会）。
	平成 23 年～平成 29 年	佐賀県小学校教育研究会国語部会事務局長。県文集づくりの提案と発行、夏季研修大会の企画運営、県大会の企画運営し、県内の国語教育の質的向上を図る。
	平成 23 年～平成 29 年	「国・語・会」事務局。県内小学校教員を対象とした国語サークル代表を務めた。模擬授業や教材分析について研究した。
	平成 24 年～平成 25 年	九州小学校国語教育研究会 佐賀大会事務局。九州大会の事務局として、大会テーマ設定、国語科の提案授業、分科会や講演等の企画運営を行った。
	令和 2 年 4 月～	現役教師と学生が共に学ぶ「教師塾」主宰（公立小学校現役教師を招き模擬授業を取り入れた授業方法）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書） 1. 実践に学ぶ特色ある学校づくり「指導方法・カリキュラム」編	単著	平成12年3月	教育開発研究所	単元構想、年間計画をどのように仕組むのか、教科横断的な視点や地域の「人・もの・こと」を関連づけた学習をいかに構想するのか、教科再編成の可能性について検証したものである。小学校全教科のカリキュラムを解体し、「総合生活科」（1・2年）、「人間科」「自然科」「表現芸術科」（3～6年）の4教科に整理し、再編を行

				った。切実な問題に直面した時、児童は身につけた知識・技能をどのように活用し、課題を解決するのか、主体的な学び、学びに向かう力をいかにつけるのかなど、これからの教師に必要な資質・能力について言及している。pp:226-233(第4章「教科学習の改善とカリキュラムの全体構造」を執筆)奈須正裕(編)8ページ(全254頁)
2.「三つのウェビング」と「ポートフォリオ」による子どもの学びを価値づける授業評価法	単著	平成15年3月	東洋館出版社	児童の学力を保障し、学ぶ意欲を高めるには、盤石な学級経営が欠かせない。児童の興味・関心や発想をもとに学びを創るには、教師の授業を構想する力が左右する。本論では、「興味・関心のウェビング」「教科横断的な学習内容のウェビング」をもとに、教師の授業構想の方法、児童の学習履歴から学びをたどる方法、授業の評価方法について、提案している。児童が主体的に対象に関わり、協働的に学ぶ授業づくり、教師が抱える課題の改善策について考察したものである。pp:110-119(事例9:総合的な学習における授業評価方法について執筆)佐藤真(編)10ページ(全132頁)
(学術論文等) 1.「記号論的発問」による読解指導に関する研究—小学校における文学教材を通して—	単著 (査読あり)	平成18年2月	兵庫教育大学大学院学校教育研究科論文集	社会情勢の動向、学習指導要領の変遷に伴い、児童に身につけさせるべき資質・能力がどのように変化したのか、児童の学力を保障するにはどのような指導方法が適しているのか、どのような教師像が求められているのか、教育界の現状と課題について整理、検討を加えた。児童の実態を把握する力、教材解釈力、単元構想が児童の学力にどのように反映するのか、実証研究を行い、学級経営を軸にした授業づくり、記号論の視点に沿った発問について分析し、その有効性について述べている
2. ことばでつながる学び手をはぐくむ国語過学習の探求	共著	平成24年3月	佐賀大学教育実践研究第28集	本論では、一人ひとりのことばの獲得状況や経験の違いに着目し、受け止め方や複数の発言を聞き取り整理分類する方法を授業実践を通して、児童に自覚させることを試みた。話し合い活動を活性化させるための要素を抽出し、話し合う力を言語認識力、言語伝達力、言語構想力に整理した。対話活動の質を高めるために、教師の手立てが有効に働いたのか、実践を通して検証した。pp:173-192(共同研究のため抽出不可:対話活動の質を高めるための話形モデルや児童の話し合いが活性化する教師の発問につ

				いて執筆)【共著】脇山英靖・長野篤志・池田直人・羽田潤 pp.173-192 共著のため抽出不可
3. 国語科の読解の授業にICTを取り入れることの効果」	共著 (査読あり)	平成 26 年 3 月	佐賀大学文化教育学部 研究論文集第 19 集	全国や県の学習状況調査結果を受け、児童に学力を保障する、保護者や児童に説明責任を果たすことは、喫緊の課題である。児童の学ぶ意欲を高めるために、学習状況を正確に把握し、魅力ある言語活動を設定する。さらには、児童自らが資質・能力を高める質の高い授業を保障する必要がある。本論では、ICT を活用した授業の有効性を明らかにするとともに、その有効性を生かした実践を行い、効果を測定したものである。「聞いてわかるから見てわかる」授業への転換を図り、児童が電子黒板の操作に参加し、授業の効率化、対話の活性化をはかる授業実践を通して、ICT を取り入れた授業の有効性を実証した。【共著】脇山英靖・達富洋二 pp. 41-70 脇山が 4, 5, 6 章、達富が 1, 2, 3, 7 章を執筆。 本研究は、平成 25～27 年度 (2013～2015 年度) 独立行政法人日本学術振興会 科学研究費基盤研究 (C) (一般)、課題番号 (25370483)、研究課題名「教室談話における「発話―指名行為」の社会言語学的研究」の研究助成を受けている
4. 「確かな国語力」を身に付けさせる言語活動の工夫	共著	平成28年3月	佐賀大学教育実践研究第3集	学習用語を基軸とした「読みの観点」を「読みの観点カード」として、カード化し、読むための方策を可視化した。児童がカードを「知って使って使えるようにする」ために、段階的な指導を取り入れ、対話活動を通して、カードを意図的に使わせることで、単元を貫く言語活動を可能にした。【共著】筒井 泰登・脇山 英靖・荒川尚 pp:233-243 共著のため抽出不可
5. 「読みの観点」を児童に習得活用させる効果的な指導方法(1)～説明的文章における読解指導を通して～	単著	平成28年3月	佐賀大学教育実践研究第3集	筆者が仕組んだ論理を紐解き、「何が、どのように、なぜ、どのような構造で」表現されているか、その発見的認識を促すための指導方法について提案した。「読みの観点」を段階的に指導することで、児童は思考体験を蓄積し、習得・活用のサイクルを使って、主体的に学習に臨む。本論では、児童の自力学習を成立させる方策と段階的な指導の有効性について述べている。 pp:245-264

6. 「読みの観点」を児童に習得活用させる効果的な指導方法(2)－文学的文章における読解指導を通して－	単著	平成28年3月	佐賀大学教育実践研究第3集	教師はある目的をもって指導をする。児童は指導される以前より、何かしら力がついたことになる。しかし、その内実が何なのか、児童に自覚されない場合が多い。教師の「指導したつもり」は、次の学習、教材に生かされることが少ない。本論では、課題や目的に応じて、情報を正確に受け取り、自分の考えを明確に相手に伝え、的確に表現する「三つの確」をもとに、重点的に指導を行った。具体的には、学習指導要領や教科書から抽出した学習用語や観点（ものの見方考え方）を系統表にまとめ、系統表を児童に活用させながら、資質・能力を自力で高める授業について考察を加えたものである。 pp:265-282
7. 確かな読みを育てる国語科学習の開発－読解力を高めるための言語活動の工夫－	共著	平成29年3月	佐賀大学教育実践研究第4集	確かな読みを「内容を正確に読ませること」「読みの方法を自覚させること」と定義し、「思考を整理する場」と「読みの妥当性を問う場」を設定することで、読解力を高めることを試みた。「思考を整理する」ために10の「思考スキル」を整理した。これに効果的な言語活動を掛け合わせながら児童に思考を整理させる。また、「読みの妥当性を問う」ために「賛否を問う」など9つの教師の問いを整理して授業実践を行った。【共著】筒井 泰登・脇山 英靖・荒川尚 pp:355-364 共著のため抽出不可
8. 挿絵の分析で読解力を高める効果的な指導方法	単著	平成29年3月	佐賀大学教育実践研究第4集	複数の情報を比較し、関連づける力、グラフや図などの非言語情報と言語情報を統合的に解釈する力を身につけさせることは、全国や県の学習状況調査結果からも明らかである。本論では、教科書に掲載された複数の挿絵（同一教材）をもとに、比較する力、情報を関連づける力、俯瞰的に捉える力を児童に身につけさせる授業実践を試みた。並べ替えや人物の視点などをもとに、児童が主体的に参加し、習得した観点を活用しながら学習する展開モデルを提案した。分析技術を習得し、児童自らが作品を批評する、その方策として、言語活動がどのように効果的に働いたのか、検証している。 pp:415-434
9. 読解力を高めるための言語活動の工夫	共著	平成30年3月	佐賀大学教育実践研究第6集	「読解力」とは、言葉や文章を介した思考力である。「読解力」を高めるために、判断を問う場を設定し、思考するための着眼点や方法を用語化した「思考スキル」を意図的に使わせながら、児童に考えを持たせる。児童に判断を迫る教師の発問を意図的に行い、使った思考スキルをカード化しながら、児童の思考を可視化する。本論では、児童がどのように「思考スキル」を用い、自分の読みを判断したのか、指導の実際を述べている。【共著】荒川尚・筒井 泰登・脇山 英靖 pp:249-261 共著のため抽出不可

10. 電子黒板の活用で読解力を高める効果的な指導方法	単著	平成30年3月	佐賀大学教育実践研究第36集	児童に必要なものの見方・考え方を身に付けさせ、活用させる。その有効な手立てとして、本論では、ICTを活用した授業モデルを提案し、検証を試みた。コンテンツを使い、教師の発問・指示を最小限にする、挿絵を加工する、視覚的情報の提示の仕方を工夫することで、児童が主体的に対話活動を行っている。児童の「読みの観点」の活用状況について、分析を加え、児童同士が学びを創る、児童同士が切実感を持って対話をする、新学習指導要領に対応した授業の質的改善を図る授業づくりを提案した。pp:147-163
11. 指名なし発表で読解力を高める効果的な指導方法	単著	平成30年3月	佐賀大学教育実践研究第36集	学習指導要領が改訂されるものの、教師の教え込み、講義型授業により、児童は「受け身」の学習を行っている。児童が主体的で対話的で深い学びを実現するには、従来の講義型授業から脱却し、児童同士が協働的に学ぶ授業に転換する必要がある。本論では、学級経営の基盤を強化にし、授業に意図的に児童が話し合う場面を設定し、討論型の授業について提案した。言語活動の成果物に、児童がどのような知識・技能を活用したのか、討論型授業（アクティブラーニング）の有効性について述べている。pp:165-186
12. 「読みの観点」の活用で読解力を高める効果的な指導方法	単著	平成30年3月	佐賀大学教育実践研究第36集	読むための尺度が豊富にある、「使える」ことで、読み手の解釈の精度は高くなる。作品を自力で分析する力が向上する。児童の分析する力（活用力）が向上すれば、教師の発問・指示は少なくて済む。授業は、児童同士の話し合いを軸に、展開する。本論では、児童の発言内容に教師の発問（「読みの観点」）がどのように内包されたのか、学習成果物に「読みの観点」がどのように活用されたのか、児童の活用力について考察し、新学習指導要領に求められる資質・能力を身につけさせる授業について提案したものである。pp:127-145
13. 朝読書が初等教育の国語学力に与える効果 (1) — 児童への意識調査と単元テストの分析を通して —	共著	令和3年3月	佐賀女子短期大学 研究紀要第56集	「読書をすると賢くなる」「読む力がつく」「学校の成績が上がる」「集中力が身につく」「精神的に落ち着く」など、読書が学習面や精神面に与える効果は、定説のように言われてきた。その定説は、「何となく」である。印象の域を出ない。個々の体験や価値に基づくものである。裏付けや根拠に欠ける。本研究は、多くの学校が取り組んでいる朝の読書活動（朝読書）と読書と関係の深い国語学力に的を絞る。児童や教職員に対し、朝読書に関する意識調査を行い、朝読書を肯定的にとらえる児童が、調査後どのような国語学力を形成するのか、検証した。「単元テスト」による分析では、すべての調査項目、領域において、朝読書を肯定的にとらえる児童が、否定的に捉える児童に比べ、国語学力が高いことが明らかとなった。特に「読む」領域（

				読解力)において、その差は顕著になった。【共著】脇山英清・中島絵里香 pp.67-85 脇山が1～5章、中島が4章のうち(4.5.2)を執筆
14. 朝読書が初等教育の国語学力に与える効果(2)ー県学習状況調査(学力テスト)の分析を通してー	単著	令和3年3月	佐賀女子短期大学 研究紀要第56集	本研究では、朝読書を肯定的にとらえる児童が、年間通してどのような国語学力を形成するのか、否定的にとらえる児童に比べ、国語学力が高いと言えるのか、朝読書の効果について検証した。具体的には、児童へ意識調査を行い、県学習状況調査(国語科)の結果をもとに、「肯定群」「否定群」の有意差をみた。検証の結果、「朝読書で時間を忘れるほど熱中して本を読む」児童が、国語学力が最も高くなることが明らかとなった。また、「朝読書以外でも図書室や図書館で本を借りる」児童、「朝読書によって成績が向上した」「勉強の力がつく」など、朝読書を肯定的にとらえる児童ほど、否定的にとらえる児童に比べ、国語学力が高く、有意差がみられた。本研究を通して、朝読書が国語学力の形成に一定の効果があることを明らかにすることができた。pp.31-42
15. 学級経営が初等教育の学力に与える効果ー県学習状況調査(学力テスト)の分析を通してー	単著	令和4年8月	佐賀女子短期大学 研究紀要第57集(1)	本研究では、担任の学級経営に対し、児童がどのように評価しているのか、学級間で差が見られるのか、学級経営の効果について検証した。具体的には、児童へ意識調査を行い、県学習状況調査(国語科・算数科)の結果をもとに、「学年全体を『肯定群』『否定群』に分け学力を比較する」「各学級の『肯定群』を抽出し学級間の学力を比較する」「各学級の『上位群』『下位群』を抽出し学級間の学力を比較する」ことを試み、有意差を見た。検証の結果、「担任が差別をせず平等に接している」「児童を叱る際に理由を聞く」学級ほど、児童の学力が最も高く、有意差が見られた。また、「積極的に質問したり、調べたりする」「学級通信を積極的に読む」児童、「学級目標を全員で考える」学級ほど、学力が高くなることが明らかになった。担任の学級経営を肯定的にとらえている児童であっても、学級間では大幅な学力差が見られた。本研究を通して、学級経営の質の高さが、児童の学力形成に影響を与えることが明らかになった。pp.19-35

16. 「向山型算数」が初等教育の学力に与える効果－単元テストと県学習状況調査（学力テスト）の分析を通して－	共著	令和5年3月	佐賀女子短期大学 研究紀要第57集(2)	本研究では、初等教育（算数科）において、担任の指導方法（「向山型算数」と問題解決学習）の違いが、児童の学力にどのような影響を与えるのか、学級間で差がみられるのかについて検証した。具体的には、①同一単元による授業検証、②「単元テスト」（年間）による比較、③「県学習状況調査」による比較を試み、全体得点、領域別、観点別に有意差をみた。検証の結果、①では、「全体得点」「知識・理解」「思考・判断・表現」すべてにおいて、②では、12単元（全単元の75%）及びすべての観点において、③では、すべての領域、観点において、それぞれ有意差がみられ、「向山型算数」の有効性が明らかになった。「向山型算数」の指導方法を取り入れた学級は、「単元テスト」（年16回実施）の半数が、到達率9割を超えた。問題解決学習の指導方法を取り入れた学級は、7単元で「達成目標点」を下回り、学力における課題が明らかになった。「向山型算数」は、年間安定した学力を児童に保証する優れた指導方法と言える。 【共著】脇山英靖・中島絵里香 pp. 39－71 脇山が1～5章、中島が4章のうち（4.1.1、4.1.2）を執筆
17. 現職小学校教員が小学校教員免許を取得する学生に与える効果－「授業アンケート」（学生評価）の分析を通して－	単著	令和5年8月	佐賀女子短期大学 研究紀要第58集（1）	現職小学校教員が短大教員として授業をすることで、小学校教員免許を取得する学生にどのような影響を与えるのか、2つの方法で検証した。[1]「授業評価アンケート」における分析（3年間）では、現職小学校教員が行う授業が、本学で行われた全授業に比べ、有意差がみられ、学生に与える効果が明らかとなった。また、現職小学校教員単独で行う授業が、複数で行う授業に比べ、有意差がみられた。具体的には、「学生自身に考えさせる工夫がなされている」「学習内容に興味を持てるような工夫がなされている」「話し方や説明の仕方がわかりやすい」「説明の仕方や教材の選定に工夫がみられる」の5項目において、有意差がみられ、学生に与える効果が明らかとなった。[2]「授業満足度アンケート」における分析（3年間）では、現職小学校教員単独または複数で行う授業に関わらず、「肯定的な回答」をした学生の割合（全項目平均）が96.7%と高い結果となった。「模擬授業・演習の評価」「職業に対する見通し」「小学校教員招聘に対する評価」「指導技術・指導方法の必要性」「コミュニケーション・連携の必要性」の項目順に高くなることが明らかとなった。現職小学校教員が行う授業は、約9割の学生に「基本的実践力を身に付けることができた」と認識させ、同時に、幼稚園教諭、養護教諭の免許を取得する学生にも効果を与えることが明らかとなった。 pp. 13-33

18. 校内研究における算数の指導方法が初等教育の学力に与える効果—単元テストと学習状況調査（学力テスト）の分析—	共著	令和6年8月	佐賀女子短期大学 研究紀要第58集（1）	校内研究（算数科）において、担任の指導方法（「向山型算数」と問題解決学習）の違いが、児童の学力にどのような影響を与えるのか、学級間で差がみられるのかについて検証した。具体的には、①「単元テスト」（年間）による比較、②「県学習状況調査」による比較を試み、領域別、観点別に有意差をみた。また、③教員が単独で校内研究に取り組む場合と④学年共同で校内研究に取り組む場合で、学級間の学力に差がみられるのかについて検証した。検証の結果、①では、19単元のうち18単元において、A組（「向山型算数」）がB組（問題解決学習）を上回り、13単元（全単元の約68.4%）において、有意差がみられた。同様に17単元において、A組がB組（問題解決学習）を上回り、15単元（全単元の約78.9%）において、有意差がみられた。「知識・技能」「思考・判断・表現」の両観点において、B組、C組に対し、A組の有意差がみられた。②では、A組は、すべての領域、観点で、県平均を上回った。B組は、すべての領域で県平均を下回った。C組は、領域の半分は、県平均を上回った。学級間における学力差は、顕著となった。③では、単独で校内研究に取り組んだA学級が、他の2学級に比べ有意差がみられた。④では、学級間に有意差がみられず、3学級とも児童の学力が向上した。本研究を通して、校内研究における指導方法の違いが、児童の学力を左右することが明らかとなった。「向山型算数」は、問題解決学習の指導に比べ、年間安定した学力を児童に保証する優れた指導方法と言える。 【共著】脇山英靖・中島絵里香 pp.45—65 脇山が1～5章、中島が4章のうち（4.2.1, 4.3.2, 4.2.3）を執筆
19. ICTを活用した授業における児童の認識が初等教育の学力に与える効果—単元テストの分析—	単著	令和6年3月	佐賀女子短期大学 研究紀要第58集（2）	本研究では、ICTを活用した授業における児童の認識の違いが、学力にどのような影響を与えるのか、学級間で学力の差がみられるのかについて検証した。具体的には、「単元テスト」（年間）をもとに、①「肯定群」と「否定群」との比較、②「肯定群」同士の比較（学級間）を試み、項目別、観点別に有意差をみた。検証の結果、①では、「ICTを活用した授業に好意的な児童」「タブレットのよさや効果を実感する児童」「タブレットを自宅に持ち帰り宿題に取り組む児童」ほど、学力が高いことが明らかとなった。算数科では、国語科以上に高い有意差がみられた。また、ICTを活用した授業において、絵や図を用いた説明は、児童の学力を向上させる。しかし、ICTを活用した授業が必ずしも、児童の学力を向上させるわけではない。タブレットに頼らない、教科書を用いた従来の授業を好む児童ほど、学力が高いことが明らかとなった。 ②では、すべての項目、観点において、学力

				向上に直結する指導を行った学級（A組）の有意差がみられ、学級間における学力差が顕著となった。国語科では、「観点」を習得・活用させる段階的指導とICT活用の組み合わせ（A組）が、教師用指導書や朱書編に沿った指導（B組・C組）に比べ、児童の学力を向上させた。算数科では、「向山型算数」による指導とICT活用の組み合わせ（A組）が、問題解決学習による指導（B組・C組）に比べ、児童の学力を向上させた。 pp. 9-27
20. 「読みの観点」の発問化・系統化が初等教育の読解に与える効果	共著	令和6年3月	佐賀女子短期大学 研究紀要第58集（2）	本研究では、「読みの観点」の発問化・系統化が、児童の読解力に与える効果について検証した。具体的には、「読みの観点」に関する3つの表「(A) 動的な年間指導計画表」「(B) 系統表」「(C) 発問表」を作成し、[1]児童の学習ノート[2]言語活動[3]教員アンケートをもとに分析、考察を行った。[1]では、「作品設定」「人物像」「視点」「変容（心情の変化）」「情景描写」「クライマックス」など、児童は習得した「読みの観点」を活用することが明らかとなった。[2]では、児童全員が自力で「主題」を作成した。キーワードをもとに「題名」を読む、「作品設定」の必然性を読むなど、「読みの観点」を「書く観点」に転用する言語活動の設定は、児童の読解力を向上させる可能性が高い。[3]では、①系統が可視化され児童に習得させるべき力が明確になる②「読みの観点」の抽出、発問化は読解指導の手立てとして有効である③発問化・系統化は教材研究や発問研究に活用することができ授業の質を保証するなどの効果を得た。「読みの観点」の系統化・発問化は、児童に学習方法を自覚させ、読解力を向上させる効果的な指導方法と言える。 【共著】脇山英靖・中島絵里香 pp. 29-53 脇山が1～6章、中島が4章のうち（4.1.1～4.2.7）を執筆
21. 小学校入門期における児童の読解力を向上させる指導方法―「読みの観点」を用いた段階的指導が読解に及ぼす効果―	単著	令和6年9月	佐賀女子短期大学 研究紀要第59集（1）	本研究では、「読みの観点」における段階的指導が、小学校入門期の児童の読解にどのような影響を与えるのか、その効果について明らかにする。具体的には、[1]児童が「読みの観点」をどのように習得・活用するのかも教材を用いて授業検証を行う、[2]特定場面の展開案を児童に自力で作らせ「読みの観点」の活用状況を分析する、[3]言語活動で作成した成果物をもとに「読みの観点」の活用状況を分析することを試みた。検証の結果、[1]教材Ⅰにおいて、児童は23の「読みの観点」を習得した。児童は、4つの「読みの観点」（①「じかんことば」、②「新しい人物の登場」、③「あるひ」、④「キーワード」）で場面を捉えることが明らかとなった。教材Ⅱでは、習得した23観点のうち、21観点を活用することが明らかとなった。児童は6つの学習方法（「

				挿絵の入口と出口を提示し変化を問う」「場面同士を比較する」「各場面からキーワードを抽出する」「場面の名付け」「山場の確定」「題名の関わり」を活用した。教材Ⅲの導入で児童は、5つの「読みの観点」（「中心人物の行動・性格」「登場人物の状況・境遇」「作品設定」「場面展開の予測」「因果関係」）を活用した。場面の比較において、児童は5つの「読みの観点」（「つなぎことば」「状態語」「事柄の順序」「挿絵の遠近」「場面の共通点」）を自力で活用することが明らかになった。[2]では、児童の87.5%が、場面構造、展開の規則性を理解し、「読みの観点」を活用することが明らかとなった。[3]では、すべての児童が5つの「読みの観点」を活用し、「紹介レター」を作ることができた。本研究を通して、「読みの観点」の段階的指導が、「読みの観点」の習得・活用を促す可能性が高いことが明らかとなった。入門期の児童の読解力を向上させる効果的な指導方法と言える。 pp. 1-24
22. 「向山型国語」が初等教育の学力に与える効果ー単元テストと学習状況調査（学力テスト）の分析ー	共著	令和6年9月	佐賀女子短期大学 研究紀要第59集（1）	本研究では、国語科における担任の指導方法の違いが、児童の学力にどのような影響を与えるのか、学級間で差がみられるのかについて検証した。具体的には、①「単元テスト」（年間）による比較、②「県学習状況調査」による比較を試み、領域別、観点別に有意差をみた。検証の結果、①では、19単元のうち18単元において、A組（「向山型国語」による指導）がB組（教師用指導書や朱書編に沿った指導）を上回り、11単元（全単元の約57.9%）において、有意差がみられた。同様に18単元において、A組がC組（教師用指導書や朱書編に沿った指導）を上回り、14単元（全単元の約77.8%）において、A組の有意差がみられた。また、「知識・技能」「思考・判断・表現」の両観点において、B組、C組に対し、A組の有意差がみられた。到達率からみても、A組、B組、C組の順に学力が高い結果となった。②では、A組は、すべての領域、観点で、県平均を上回った。B組、C組はともに、「話す・聞く」「書く」「読む」の3領域で県平均を下回り、学級間の学力差は、顕著である。本研究を通して、国語科における指導方法の方法の違いが、児童の学力を左右することが明らかとなった。「向山型国語」は、教師用指導書や朱書編に沿った指導に比べ、年間安定した学力を児童に保証する優れた指導方法と言える。 【共著】脇山英靖・中島絵里香 pp. 35-58 脇山が1～5章、中島が1章のうち（1.8.1～1.8.10）を執筆

23. 「読みの観点」の段階的指導が初等教育の読解力に与える効果－単元テストと標準学力検査の分析－	単著	令和7年3月	佐賀女子短期大学 研究紀要第59集 (2)	本研究では、「読みの観点」の段階的指導が、児童の学力にどのような影響を与えるのか、学級間で差がみられるのかについて検証した。具体的には、「読みの観点」の段階的指導を取り入れた学級と取り入れない学級について、同一単元で授業を行い、2つの方法で効果を検証した。1つは、「単元テスト」を実施し、領域別、合計得点の有意差をみた。もう1つは、「標準学力検査 (CRT)」を実施し、全国平均と比較した。 「単元テスト」の結果、「知識・理解」「言語」「合計得点」すべてにおいて、A組（「読みの観点」の段階的指導）が、B組（「教師用指導書（研究編）」に準じた指導を行った学級）、C組（朱書きで解説が添削紙に掲載された「教師用教科書（指導編）」に準じた指導を行った学級）を上回り、有意差がみられた。「読みの観点」を習得・活用させる段階的指導の効果は、顕著である。B組とC組では、「知識・理解」「言語」「合計得点」において、B組が上回った。しかし、有意差はみられなかった。「研究編」と「指導編」を用いた指導方法に差がないことを示す。「標準学力検査 (CRT)」の結果、A組は「話す・聞く」(114)、「書く」(132)、「読む」(138)、「言語 (言語についての知識・理解・技能)」(135)であり、すべての領域で全国比 (100) を大幅に上回った。「読む」領域で顕著となった。「読みの観点」の段階的指導は、児童の読解力を向上させる指導方法と言える。 pp. 31-59
24. 「読みの観点」を活用した教材分析、効果的な指導方法 (1)－新教材『模型のまち』の授業展開案－	共著	令和7年3月	佐賀女子短期大学 研究紀要第59集 (2)	本研究では、読解力を向上させる教材分析、効果的な指導方法を開発する。(1) 新教材を使って、「読みの観点」にもとづいた教材分析を行う、(2) 「読みの観点」にもとづいた指導方法 (授業展開案) を作成する。具体的には、模擬授業検討会、事後検討会等を経て、全時間分を発問・指示で示す。最終的に、「17の読み」「107の発問・指示」に整理した。「17の読む」「107の発問・指示」は、「作品設定」「人物像」「中心人物の心情の変化 (クライマックス)」「モチーフ」「色」「しかけ」「情景描写」「題名の意味」など、「読みの観点」から検討することを児童に要求する。「読みの観点」を段階的に活用することができるため、「観点の定着・応用をはかる」「学習者自身、読む力がついたことを自覚する」ことができる。「17の読む」「107の発問・指示」は、児童の読解力を向上させる可能性が高い。 【共著】脇山英靖・中島絵里香 pp. 61-97 第4章 (4.1～4.3) を中島が、それ以外を脇山が執筆した。「5.2『読みの観点』にもとづいた『17の読む』『107の発問・指示』」は、中島と脇山の双方で協議、分析を行い、脇山が執筆した。

(その他) 1. 「読みの観点」で読解力を高める		平成28年3月	第43回佐賀大学国語国文学会実践発表	5年物語教材『大造じいさんとがん』の読解授業をもとに、挿絵の分析で読解力を高める効果的な指導方法について提案を行い。児童の対話活動やつぶやきから。「読みの観点」を抽出し、習得した「読みの観点」がいかに活用されたのか、児童の発言に分析を加えたものである。
2. 国語力向上指導者養成研修（西部ブロック）の課程を修了		H22.8.4 ～8.6	独立行政法人教員研修センターで研修を受ける	（福岡県福岡市）
3. 教職員等中央研修 第3回中堅教員研修の課程を修了		H28.8.8 ～8.26	独立行政法人教員研修センターで研修を受ける	（茨城県つくば市）
4. 全国保育士養成協議会 九州ブロック協議会 第23回九州ブロックセミナー佐賀大会		R5.8.25	分科会司会者	（西九州大学） 保育士養成倫理綱領を読み込む～養成校教員初任者研修を兼ねて～

※ 公立小学校における校内研究講師（指導助言・講演等）

■平成22年度

1. 平成22年度 嬉野市立塩田小学校 授業研究会（国語） 指導助言（H22.6.3）
2. 平成22年度 有田町立有田小学校 授業研究会（国語） 指導助言（H22.8.2）
3. 平成22年度 有田町立有田小学校 授業研究会（国語） 指導助言（H22.10.5）
4. 平成22年度 嬉野市立塩田小学校 授業研究会（国語） 指導助言（H22.11.1）

■平成23年度

5. 平成23年度 嬉野市立塩田小学校 授業研究会（国語） 指導助言（H23.6.1）
6. 平成23年度 武雄市立北方小学校 授業研究会（国語） 指導助言（H23.8.3）

■平成24年度

7. 平成24年度 武雄市立北方小学校 授業研究会（国語） 指導助言（H24.6.13）
8. 平成24年度 武雄市立御船が丘小学校 模範授業（国語） 指導助言（H24.6.20）
9. 平成24年度 武雄市立御船が丘小学校 模範授業（国語） 指導助言（H24.11.14）
10. 平成24年度 鹿島市立明倫小学校 模範授業・授業研究会（国語） 指導助言（H25.1.30）

■平成25年度

11. 平成25年度 小城市立牛津小学校 授業研究会（国語） 指導助言（H25.8.6）
12. 平成25年度 みやき町立北茂安小学校 授業研究会（国語） 指導助言（H25.8.7）
13. 平成25年度 武雄市立御船が丘小学校 授業研究会（国語） 指導助言（H25.9.25）
14. 平成25年度 武雄市東川登小学校 授業研究会（国語） 指導助言（H25.11.26）
15. 平成25年度 武雄市立御船が丘小学校 授業研究会（国語） 指導助言（H25.11.27）

16. 平成25年度	武雄市立北方小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H25.12.2)
17. 平成25年度	武雄市立北方小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H25.12.11)
18. 平成25年度	武雄市立北方小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H25.12.25)
19. 平成25年度	佐賀市立川上小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H26.2.5)
20. 平成25年度	白石町立北明小学校	模範授業 (国語)	指導助言 (H26.2.24)

■平成26年度

21. 平成26年度	嬉野市立吉田小学校	模範授業・授業研究会 (国語)	指導助言 (H26.6.18)
22. 平成26年度	鹿島市立明倫小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H26.6.25)
23. 平成26年度	武雄市立北方小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H26.7.18)
24. 平成26年度	佐賀市立川上小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H26.8.1)
25. 平成26年度	唐津市立高島小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H26.8.4)
26. 平成26年度	鹿島市立七浦小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H26.8.7)
27. 平成26年度	鹿島市立明倫小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H26.11.19)
28. 平成26年度	佐賀市立川上小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H27.3.11)

■平成27年度

29. 平成27年度	神崎市立西郷小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H27.6.10)
30. 平成27年度	神崎市立神崎小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H27.6.24)
31. 平成27年度	神崎市立西郷小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H27.7.1)
32. 平成27年度	神崎市立神崎小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H27.7.2)
33. 平成27年度	鹿島市立明倫小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H27.7.8)
34. 平成27年度	小城市立牛津小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H27..8.6)
35. 平成27年度	鹿島市立明倫小学校	模範授業 (国語)	指導助言・講話 (H27.8.6)
36. 平成27年度	唐津市立長松小学校	模範授業 (国語)	指導助言・講話 (H27.10.7)
37. 平成27年度	神崎市立西郷小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H27.10.14)
38. 平成27年度	鹿島市立明倫小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H27.11.4)
39. 平成27年度	神崎市立西郷小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H27.11.11)
40. 平成27年度	鹿島市立明倫小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H27.11.26)
41. 平成27年度	佐賀市立川上小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H27.12.2)
42. 平成27年度	太良町立多良小学校	模範授業 (国語)	指導助言・講話 (H28.2.17)
43. 平成27年度	佐賀市立川上小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H28.3.9)

■平成28年度

44. 平成28年度	鹿島市立明倫小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H28.6.3)
45. 平成28年度	小城市立牛津小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H28.6.15)
46. 平成28年度	神崎市立西郷小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H28.6.22)
47. 平成28年度	小城市立牛津小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H28.8.29)
48. 平成28年度	神崎市立西郷小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H28.8.30)
49. 平成28年度	神崎市立西郷小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H28.8.31)
50. 平成28年度	小城市立牛津小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H28.10.19)
51. 平成28年度	神崎市立西郷小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H28.10.25)
52. 平成28年度	神崎市立神崎小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H28.10.26)
53. 平成28年度	鹿島市立明倫小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H28.10.28)
54. 平成28年度	神崎市立西郷小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H28.11.2)
55. 平成28年度	小城市立牛津小学校	授業研究会 (国語)	指導助言 (H28.11.16)

- | | | | | |
|-----|--------|-----------|-----------|-------------------|
| 56. | 平成28年度 | 小城市立牛津小学校 | 授業研究会（国語） | 指導助言（H28.11.24） |
| 57. | 平成28年度 | 神崎市立西郷小学校 | 授業研究会（国語） | 指導助言（H28.11.29） |
| 58. | 平成28年度 | 鹿島市立明倫小学校 | 授業研究会（国語） | 指導助言（H28.12.2） |
| 59. | 平成28年度 | 鹿島市立明倫小学校 | 授業研究会（国語） | 指導助言・講話（H29.2.28） |

■平成29年度

- | | | | | |
|-----|--------|-----------|-----------|-----------------|
| 60. | 平成29年度 | 鹿島市立明倫小学校 | 授業研究会（国語） | 指導助言（H29.6.7） |
| 61. | 平成29年度 | 鹿島市立明倫小学校 | 授業研究会（国語） | 指導助言（H29.6.29） |
| 62. | 平成29年度 | 鹿島市立明倫小学校 | 授業研究会（国語） | 指導助言（H29.7.6） |
| 63. | 平成29年度 | 神崎市立西郷小学校 | 授業研究会（国語） | 指導助言（H29.7.12） |
| 64. | 平成29年度 | 鹿島市立明倫小学校 | 授業研究会（国語） | 指導助言（H29.8.8） |
| 65. | 平成29年度 | 鹿島市立明倫小学校 | 授業研究会（国語） | 指導助言（H29.8.23） |
| 66. | 平成29年度 | 神崎市立西郷小学校 | 授業研究会（国語） | 指導助言（H29.10.11） |
| 67. | 平成29年度 | 神崎市立西郷小学校 | 授業研究会（国語） | 指導助言（H29.11.1） |

■平成30年度

- | | | | | |
|-----|--------|-----------|-----------|-----------------|
| 68. | 平成30年度 | 鹿島市立明倫小学校 | 授業研究会（国語） | 指導助言（H30.6.14） |
| 69. | 平成30年度 | 鹿島市立明倫小学校 | 授業研究会（国語） | 指導助言（H30.10.18） |
| 70. | 平成30年度 | 鹿島市立明倫小学校 | 授業研究会（国語） | 指導助言（H30.11.1） |

■令和3年度

- | | | | | |
|-----|-------|-------------|-----------|----------------|
| 71. | 令和3年度 | 伊万里市立波多津小学校 | 校内研修会（国語） | 指導助言（R3.10.27） |
|-----|-------|-------------|-----------|----------------|

■令和4年度

- | | | | | |
|-----|-------|-----------|-----------|---------------------|
| 72. | 令和4年度 | 神崎市立神崎小学校 | 校内研修会（国語） | 模範授業・指導助言（R4.05.25） |
| 73. | 令和4年度 | 神崎市立神崎小学校 | 校内研修会（国語） | 指導助言（R4.06.22） |
| 74. | 令和4年度 | 神崎市立神崎小学校 | 校内研修会（国語） | 指導助言（R4.10.05） |
| 75. | 令和4年度 | 神崎市立神崎小学校 | 校内研修会（国語） | 指導助言（R4.11.02） |

■令和5年度

- | | | | | |
|-----|-------|------------|--------------|---------------------|
| 76. | 令和5年度 | 有田町立有田小学校 | 校内研修会（国語） | 模範授業・指導助言（R5.05.10） |
| 77. | 令和5年度 | 神崎市立神崎小学校 | 校内研修会（国語） | 模範授業・指導助言（R5.05.17） |
| 78. | 令和5年度 | 有田町立有田小学校 | 校内研修会（国語） | 指導助言（R5.06.01） |
| 79. | 令和5年度 | 鹿島市立北鹿島小学校 | 校内OJT研修会（国語） | 指導助言（R5.06.15） |
| 80. | 令和5年度 | 神崎市立神崎小学校 | 校内研修会（国語） | 指導助言（R5.06.28） |
| 81. | 令和5年度 | 有田町立有田小学校 | 校内研修会（国語） | 指導助言（R5.07.31） |
| 82. | 令和5年度 | 鹿島市立北鹿島小学校 | 校内OJT研修会（国語） | 指導助言（R5.08.01） |
| 83. | 令和5年度 | 神崎市立神崎小学校 | 校内研修会（国語） | 指導助言（R5.10.11） |
| 84. | 令和5年度 | 鹿島市立北鹿島小学校 | 校内OJT研修会（国語） | 指導助言（R5.10.20） |
| 85. | 令和5年度 | 有田町立有田小学校 | 校内研修会（国語） | 指導助言（R5.10.25） |
| 86. | 令和5年度 | 有田町立有田小学校 | 校内研修会（国語） | 指導助言（R5.11.15） |
| 87. | 令和5年度 | 神崎市立神崎小学校 | 校内研修会（国語） | 指導助言（R5.12.06） |
| 88. | 令和5年度 | 有田町立有田小学校 | 校内研修会（国語） | 指導助言（R5.12.08） |
| 89. | 令和5年度 | 鹿島市立北鹿島小学校 | 校内OJT研修会（国語） | 指導助言（R6.02.13） |

■令和6年度

- | | | | | |
|-----|-------|-----------|-----------|---------------------|
| 90. | 令和6年度 | 神崎市立神崎小学校 | 校内研修会（国語） | 模範授業・指導助言（R6.05.21） |
|-----|-------|-----------|-----------|---------------------|

- 9 1. 令和6年度 神崎市立神埼小学校 校内研修会(国語) 指導助言 (R6.07.03)
9 2. 令和6年度 鹿島市立北鹿島小学校 OJT研修会(国語) 指導助言 (R6.08.05)
9 3. 令和6年度 鹿島市立北鹿島小学校 OJT研修会(国語) 指導助言 (R6.10.17)
9 4. 令和6年度 神崎市立神埼小学校 校内研修会(国語) 指導助言 (R6.12.04)
9 5. 令和6年度 鹿島市立北鹿島小学校 OJT研修会(国語) 指導助言 (R7.02.20)

■令和7年度

- 9 6. 令和7年度 神崎市立神埼小学校 校内研修会(国語) 模範授業・指導助言 (R7.05.08)
9 7. 令和7年度 鹿島市立北鹿島小学校 メンタリング研修会(国語) 指導助言 (R7.05.29)

〈講演会〉

1. 子育て支援センター事業「子育て講演会」講演会講師
「乳幼児からつながる就学期」～小学校世界から見える親子関係～(多久市子育て支援センター)
(R3.1.28)
2. 子育て支援センター事業「子育て講演会」講演会講師
「乳幼児からつながる就学期」～小学校世界から見える親子関係～(多久市子育て支援センター)
(R4.3.17)
3. 「子育て講演会」講師
「小学校から見える乳幼児期」～親子関係をとおして～(多久市認定こども園さくらんぼ)(R4.6.18)
4. 子育て支援センター事業「子育て講演会」講演会講師
「乳幼児からつながる就学期」～小学校世界から見える親子関係～(多久市子育て支援センター)
(R5.3.16)
5. 子育て支援センター事業「子育て講演会」講演会講師
「乳幼児からつながる就学期」～小学校世界から見える親子関係～(多久市子育て支援センター)
(R6.3.15)
6. 子育て支援センター事業「子育て講演会」講演会講師
「乳幼児からつながる就学期」～小学校世界から見える親子関係～(多久市子育て支援センター)
(R7.3.6)

＜所属学会等＞

日本教育技術学会 (R2.4～)